

各位

上場会社名 朝日工業株式会社
 代表者 代表取締役社長 村上 政徳
 (コード番号 5456)
 問合せ先責任者 常務取締役管理本部長 稲場 進
 (TEL 03-3987-2161)

平成30年3月期通期業績予想等と実績値との差異並びに剰余金の配当(無配)に関するお知らせ

2018年3月期(2017年4月1日～2018年3月31日)連結業績につきまして、2018年2月6日に公表いたしました予想値および個別業績における前連結会計年度実績値との差異が生じたのでお知らせいたします。また、剰余金の配当(無配)についても、併せてお知らせいたします。

記

●業績差異について

1. 2018年3月期通期連結業績予想値と実績値との差異(2017年4月1日～2018年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	37,000	50	100	50	7.14
実績値(B)	35,878	▲64	▲74	▲362	—
増減額(B-A)	▲1,121	▲114	▲174	▲412	
増減率(%)	▲3.0	—	—	—	
(ご参考)前期実績(2017年3月期)	32,354	1,200	1,115	820	117.15

2. 2018年3月期通期個別業績実績値と前期実績値との差異(2017年4月1日～2018年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前期実績(A)	30,176	1,054	915	764	109.28
実績値(B)	33,459	▲221	▲350	▲541	—
増減額(B-A)	3,283	▲1,275	▲1,266	▲1,305	
増減率(%)	10.9	—	—	—	

3. 差異の理由

①連結業績予想値と実績値との差異

前回業績予想開示時に対し、鉄鋼建設資材事業について、鉄筋需要低迷を背景に販売数量が5%程度下振れしたこと、主副原料価格が10%程度上昇しコストアップを余儀なくされたことに加え、農業資材事業についても、肥料販売数量が10%程度下振れしたことにより、営業利益、経常利益が前回発表予想を大幅に下回る結果となりました。

また、予定していた資産売却等が計画に届かなかったことに加え、繰延税金資産の回収可能性を検討した結果、前回業績予想開示時の想定以上に取り崩しを行ったことで、親会社株主に帰属する当期純利益が業績予想を大幅に下回る結果となりました。

②個別業績実績値と前期実績値との差異

主力の鉄鋼建設資材事業において、主原料である鉄スクラップ価格が高値基調で推移したことに加え、合金鉄・電極・耐火物等の副資材価格も海外需要の高まりによって上昇し、大幅なコストアップを余儀なくされたことに対し、販売価格の改善が追いつかず、営業利益、経常利益、当期純利益いずれも前期実績を大幅に下回る結果となりました。

●剰余金の配当（無配）について

1. 配当の内容

	決定額	直近の配当予想 (2017年11月6日公表)	前期実績 (2017年3月期)
基準日	2018年3月31日	2018年3月31日	2017年3月31日
1株当たりの配当金	0円00銭	10円00銭	20円00銭
配当金総額	—	—	140百万円
効力発生日	—	—	2017年6月26日
配当原資	—	—	利益剰余金

2. 理由

当社は、株主の皆様への利益還元を経営の重要事項と認識しており、財政面の健全性を維持しつつ、安定的な配当を継続していくことを会社の基本方針としております。

しかしながら、上記「2018年3月期通期連結業績予想値と実績値との差異」に記載したとおり連結当期純損失が362百万円となったことに加え、企業価値向上に向けた事業投資が喫緊の課題であるとの判断により、当期の期末配当を誠に遺憾ながら無配とさせていただきたく存じます。

その結果、当期の配当は既に実施いたしました中間配当のみとなり、1株あたりの年間配当額は10円となります。

なお、株主優待は従来どおり実施いたします。

(参考) 年間配当の内訳

	1株あたりの配当金		
	第2四半期末	期末	合計
当期実績	10円00銭	0円00銭	10円00銭
前期実績(2017年3月期)	10円00銭	20円00銭	30円00銭

以上